

はじめに

このたび『横浜市歴史博物館調査研究報告』No. 19 を刊行いたします。

今回は、横浜市内の小学校である寺尾小学校のふるさと資料室にある資料の目録を刊行いたします。横浜市歴史博物館では、2013年度～2017年度まで当館を中核館として「学校・地域・博物館をつなぐ博物館デビュー支援発展」事業を行いました。今回の目録はこの後継事業として、継承された、小学校郷土資料室資料の調査・整理の成果になります。

寺尾小学校ふるさと資料室は、平成7年(1995)の創立四十周年記念事業の一環として開室され、地域の文化財を解説展示することにより歴史学習や体験学習に役立てることや、地域の歴史資料保存室として活用し地域の方々の生涯学習に役立てることを目標に開室した資料室です。現在、資料室は一般公開されておきませんが、地元寺尾地域の方々や教職員らが収集した資料は、地域に対する思いが詰まった資料であるとともに、生活史研究や地域史研究、民俗学研究等においても大変貴重な資料です。

こうした資料の活用や小学校における学習の一助となるべく、目録を刊行いたします。ご活用いただけましたら、幸いです。

最後になりましたが、寺尾小学校はじめ、寺尾小学校ふるさと資料室に関わる多くの方々に、厚くお礼申し上げます。

2023年3月31日

横浜市歴史博物館
館長 佐藤 信

解題・凡例

1 寺尾小学校ふるさと資料室ならびに資料室における資料調査・整理について

寺尾小学校ふるさと資料室（郷土資料室）は、平成 7 年（1995）の寺尾小学校創立四十周年記念事業の一環として開室され、昔の農業用具や生活用品などの地域の文化財を解説展示することにより、児童の歴史学習や体験学習に役立て、ふるさと寺尾への愛着心を育むことや、地域の歴史資料保存室として活用することを通じ、地域の方々の生涯学習に役立てることを目標に、寺尾小学校教職員をはじめ、ふるさと資料室運営委員会や、PTA、PTA おやじの会などによって運用されてきた。授業においても 1・2 年生の「生活科」や 3 年生以上の「総合的な学習の時間」などで現在も利用されている。資料室の資料については、初代ふるさと資料室運営委員長であった堀井の次の文章にその経緯が書かれている。「当資料室の開室は、岸谷小の創立記念祝賀会に出席しましたおりに寺尾小でも学校と地域が一つになって子どもたちのためになることはないだろうかとそこに参加した学校の先生、PTA、地域の方々の代表の話より始まりました。（中略）学校創立 40 周年のふるさと資料室開室にあたっては、中村工務店様に囲炉裏、居間、かまど他の設備作りに力添えを頂きました。出口武様には、漁網、漁具等の提供を頂きました。また、兼子清寿様、澤野幸男様、五神嘉子様、友野重幸様、永島成泰様、永島寅次郎様、齋藤国雄様、持丸博太郎様、北村千代様他多くの方々より資料の提供を頂きました。」※ 1 とされ、地元地域の方々や教職員、PTA が中心となって資料の収集を行い開室されたことが分かり、寺尾地域に住んでいる人々の生活で使われた資料を中心とした「寺尾に根付いた」資料群であるといえよう※ 2。

開室より時間が経過し、より活用しやすい資料室としての運用のため、令和 2 年（2020）5 月～令和 3 年（2021）4 月の期間において、諸資料の調査・整理、展示リニューアル等を横浜市歴史博物館学芸員と学芸補助のスタッフで行った。この資料調査・整理作業は、平成 25 年度～29 年度（2013～2017 年度）まで横浜市歴史博物館を中核館として行われた「学校・地域・博物館をつなぐ博物館デビュー支援発展」事業の後継事業として継承された事業成果である。

寺尾小学校ふるさと資料室における資料調査・整理は、寺尾小学校にて資料撮影、採寸・調査・注記等の作業を経て、資料カードの作成、展示のリニューアルを行い、博物館にてその資料カードのデータベース作成を行った。折からのコロナウイルス感染の流行という状況下にて、小学校・博物館ともに感染拡大に対応を執りつつの長期にわたる作業であったが、535 件（1547 点）の資料を整理することができた。

また、これらの資料調査・整理作業中である 2021 年 2 月には、当館学芸員による出張授業を資料室内にて行った。

資料調査・整理した結果や内容を画像貼付した資料カードとしてまとめ、それらの情報から目録として一覧にまとめたものが当報告の目録である。また、資料カードの画像貼付部分（資料カード裏）も一覧としてまとめた。

※ 1 ふるさと資料室内にあったパンフレットより。内容からふるさと資料室開室 10 周年時に配られたものと考えられる。また、堀井氏よりも同様の話を聞いている（2021 年、ふるさと資料室にて堀井氏より小林が調査）

※ 2 出口武氏より寄贈を受けた、漁網、漁具等については、出口氏出身の千葉県富津市の資料であり、出口氏自身やその親が富津で漁業に関係していたときに使っていた資料であるという（2021 年、ふるさと資料室にて出口氏より小林が調査）

2 目録・資料カード凡例

- ・項目として、目録は、資料番号、資料名、かな、資料の由来 / 使用法 / 作成 / 宛先等、年代、長さ（縦）、幅（横）、高さ、径（φ）、備考から構成され、資料カード（裏）では、これら法量（採寸）の図示部分や目録項目で文章にしづらい部分を中心に記述・記載されている（一部重複部分もある）。
- ・資料番号は「1 寺尾小学校ふるさと資料室ならびに資料室における資料調査・整理について」で前述した「学校・地域・博物館をつなぐ博物館デビュー支援発展」事業と同様の番号体系を用い番号を付した（てらおしょうがっこう【T】ふるさと【F】しりょうしつ【S】鶴見区【TR】資料調査・整理実施校3番目【3】「TFS-TR3-」を冠しハイフン後に通し番号が付されている）。
- ・資料名は、資料室内にて付けられていた資料説明（キャプション）の名称を基本に付している。しかし、すべての資料に資料説明が付されている訳ではなく、その場合は一般的と考えられる名称を付した。また、推定で名称を付した場合は「（ ）」を付した。
- ・表記の文字について、基本的には現状のまま旧字を新字に直さずに記した。しかし、p c入力において変換できない一部の旧字や異体字、屋号、記号などは「■」とし、備考欄に「■」の説明（たとえば、■はへにト）をした。
- ・判読のむずかしい文字について、推定のもは「カ」をつけ、判読不明の文字は「□」で表し文字数もそれに合わせて表記した（たとえば、二文字読めないときは「□□」）。また、文字数もわからない場合は「[]」を使用した。
- ・年代は資料自体に付けられていた年代のままを記載することを基本とした。そのため西暦・和暦が混在している。
- ・長さ・幅・高さ・径（φ）といった資料の大きさに関わる数値（法量）は、mmを単位とした。
- ・その他、項目外の情報などは備考にまとめた。
- ・資料カードの記載としては、静止画画像を元に前述の法量における寸法線や文字情報記入箇所など、文字化しにくい情報やその他備考・詳細などを示した。
- ・本目録作成は、当館学芸員、小林光一郎が担当し、資料調査・整理等にあたり、下記、学芸補助の方々に作業をして作成した（以下、敬称略）。石森朗代、大内ひとみ、加藤七海、小林路子、櫻井尚美、佐藤敏江、田島久代、千葉芳子、福田正子、三村宜敬、宮内典子、本村裕美、渡邊陽子。